



臨床医学

内科学(消化器)講座

獨協の消化器内科とは



主任教授 入澤篤志

当講座は、上部消化管・下部消化管・肝臓・胆道・膵臓と、幅広い領域を担当しています。消化器病には各領域を跨いだ疾患が多く、全身の臓器と関連する疾患も少なくありません。そのため、「**広い見地から全身を診察することができる内科医師、かつ各消化器領域において高度な専門性を発揮できる消化器内科医の育成**」を基本方針として普通の診療を全うしています。良い教育により当講座の医師たちが必然的に自己研鑽に努めることは、結果的に患者さんに対する質の高い医療の提供、そして素晴らしい研究にも繋がります。今後は「**個別化(テーラーメイド)医療**」をキーワードとした研究も進めていければと考えています。チームワーク抜群の当講座が大きな

仕事・研究を成し遂げられるよう、地域の皆様には様々な角度から叱咤激励をいただき、私どもの歩みにご支援賜りたく存じます。

症例に学び、難治性疾患に挑む

当講座の役目である**地域医療への貢献**は、臨床の大きな柱です。まずは地域医療をしっかりと充実させた上で、栃木県、全国、ひいては世界の医



日々研鑽を積む医師たち
2019年1月撮影

療・医学の発展に大きく貢献できるよう新たな臨床医学を追求していきたいと考えています。基本的な消化器診療を大事にしながら様々な難治性疾患にも積極的に取り組み、特許に繋がる創薬・機器開発、各種疾患ガイドライン作成に貢献できる研究を進めていきます。特に消化器内視鏡分野においては**獨協医科大学病院でなければできない検査・治療を積極的に導入・開発**し、医師主導治験や先進医療として展開したいと考えています。



日本有数の検査体制が整う
消化器内視鏡センター

Q.どんな研究をしているの？ A.一例をご紹介します

【慢性膵炎、早期慢性膵炎患者における腸内細菌叢の解析】

慢性膵炎患者さんの便に含まれる腸内細菌叢(腸内フローラ)を解析し、健康者の腸内の細菌叢と比較する研究です。慢性膵炎の発症や進行の原因となっている腸内細菌を特定でき、慢性膵炎の予防や早期診断に役立つ可能性があります。

【ERCP 後膵炎の発症進展に関わる免疫応答の解明】

内視鏡を使って胆管膵管を造影する内視鏡的胆管膵管造影(ERCP)検査後に、膵炎を発症し苦しむ患者さんがいます。免疫応答が膵炎発症にどう関与しているかを解明するこの研究によって、ERCP 後膵炎の発症・進展が抑えられ、予防薬が確立されるかもしれません。



内科学(消化器)講座ホームページ <http://dokkyo-shokaki.net>